

群馬大に寄付講座 アナログ回路を研究 ルネサステクノロジ

部の寄付講座は初めて。

「ルネサステクノロジ 先端アナログ回路工学講座」の名称で三年間実施する。ルネサスは群馬大に三年間で九千万円を寄付する。教授として専門の研究者を二人招へい。最新のアナログ技術の調査や研究、大学院生への講義や論文の指導を行う。毎年五人ほどの指導を予定している。

アナログ技術は携帯電話やハードディスク、先端医療機器の集積回路に使用されており、高周波化や省電力化に対応した技術開発が重要となっている。ルネサスは自社の技術課題などを講座に研究テーマとして提示するなど、連携を図る方針。

半導体製造大手のルネサステクノロジと群馬大学は二十二日、六月から群馬大工学部に寄付講座を設置すると発表した。微弱な信号をデジタル信号に置き換えるアナログ集積回路に関する技術の研究開発や、技術者の育成が目的。アナログ技術は今後、市場の伸長が見込まれており、これまで不足していた大学での技術教育を充実する。同学